

入間川流域緊急治水対策プロジェクト

入間川流域緊急治水対策プロジェクトのとりまとめ公表に際しての委員コメント

川越市長 川合 善明

河川に囲まれている川越市にとって、河道掘削、堤防整備による「流下能力の向上」や「越水させない対策」は、大変心強い取組です。特に、流域の対策として検討するハイブリッド型の遊水地は、予定されている地域の内水を積極的に受け入れ、地域の内水浸水被害を軽減できるよう国へ特段の配慮をお願いしたい。また、ソフト対策として、水位情報の共有や避難情報については、国、県、市町の連携が重要であると考えているので、引き続き国、県の協力をお願いしたい。



東松山市長 森田 光一

堤防の決壊箇所を含め、一歩踏み込んだ形の具体的なプロジェクトを作成いただき、大変心強く思っています。プロジェクトに沿って概ね5年間で河川の治水安全度を上げ、洪水から地域住民を守る施策を強力に推進いただくと共に、緊急的な対応が必要な箇所については梅雨時期前までに対策をお願いします。今後、堤防整備等様々な工事が始まりますが、市は事業推進に向け全面的に協力し、国・県との連携のもと、人命を最優先として災害対策に全力で取り組みます。



坂戸市長 石川 清

私は幼いころから川の近くに住み、身近な存在であるが、昨年の台風第19号では、堤防の決壊等により、3,700人弱の市民に避難いただくような、大きな浸水被害が発生してしまった。今後も昨年のような状況を想定していかなければならない。河川整備は、もう一度基本から検討いただく段階にあり、プロジェクトにある遊水地については、内水対応にも有効であると考えるので、河川管理者である国、県にはこれらのハード対策を中心に、プロジェクトを速やかに推進いただきたい。坂戸市としても、昨年は排水ポンプ車の配備等の対応をしたが、今後、国、県に頼むだけではなく、市でもできることはやっていきたいと考えている。



川島町長 飯島 和夫

早急なプロジェクトをとりまとめていただき感謝いたします。周囲を河川に囲まれた我が町の治水対策は最も重要な施策であります。特に、堤防の強化をはじめ、河川の流下能力を向上させるための河道内の樹木伐採や土砂の掘削については、早急に進めていただきたい。また、土地利用として位置づけ、当町に整備を予定している高台避難所については、一日も早く整備できるよう国と一体となって進めたい。



熊谷地方気象台長 桜井美菜子

令和元年台風第19号による記録的な大雨。地球温暖化の進行が懸念される今、再び大雨としない保証などありません。「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」は、こうした時代に文字通り「地域が連携」「多重防御治水」により「社会経済被害の最小化」を目指すものです。プロジェクト推進のため、熊谷地方気象台はより正確できめ細かな気象情報を、必要とされている方々へ過不足なく適時にお届けすべく、全力で取組んで参ります。